

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101867		
法人名	有限会社 美母愛		
事業所名	ブルーホーム くまのの郷		
所在地	宮崎市大字熊野字熊野7287番地1		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成24年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4570101867-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの理念として5か条を掲げ、それを念頭に入れた上で、利用者介護に努めている。行事としては、季節を感じてもらうことを目的として、季節ごとにイベントを計画している。行事によっては、家族の方と一緒にやって行事を行っている。また、地域の中にある施設として、地域で行われる行事(溝さらい、夏祭り準備等)にも参加している。2か月に一度行われる地域運営推進会議は、家族や地域の方の参加の他、他のグループホームのスタッフを交えて行うなど、マンネリ化しないよう努めている。今後は、ボランティアの受け入れやより地域に根差した施設を目指し、取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を踏まえ、ホーム独自のケア理念を掲げ、その実践に向けて活動している。その第1に「地域に開けた施設づくり」をあげ、地域の溝さらいや防災訓練への参加、認知症について講師として招かれたり、参加の域を超え、地域に貢献している。災害対策についても、火災のみならず、地震防災訓練など、地域を含めた訓練の実施記録も確認でき、災害に対する意識は高いものがある。「笑顔と元気をモットーに」に基づき、他ホームの和太鼓演奏見学や近くの神社の夏祭り、回転ずしを楽しむなど、ホームから外へ出る取組も積極的である。利用者の中で、男性は一人だけであるが、中心人物となっており、スタッフを含め、全員が明るさと元気をを感じるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの理念(くまのの郷 5ヶ条 1.やさしさと笑顔をもっとに、2.その人らしさを大切に、3.普段の暮らしを提供する、4. 孤独にせず、声かけをする、 5.入居者の『今』を大切に)が定めてあり、その理念に基づいて職員は実践している。	法人理念を踏まえ作成されたホームの理念は、各自が持つ「ハンドブック」に明記され、日々の実践等で思い悩む時、理念に立ち戻り、職員全員で検討し、結果を共有する取組が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、祭りなどの行事に参加している。	家族と共に、大学の学園祭に行ったり、認知症について講師として地域に出向いたり、地域の防災訓練、地域の敬老会等に参加し、ホームには地域のボランティアを受け入れるなど、積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『郷便り』の中に、認知症の定義や介護方法及び施設の行事を記載して、発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(2ヶ月に一度開催)では、地域の自治会長や他のグループホームの方も参加して、意見交換を行っている。	運営推進会議は定期的に行われ、毎回ごとの会議録は明確に整理されているが、利用者の参加に欠けたり、家族の意見等を積極的に引き出すまでには至っていない。	運営推進会議は、利用者やその家族が意見を出しやすい場でもあるため、積極的な意見交換が行われることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員は、市の担当課主催の研修会に参加し、直接、市の担当者への電話等で、サービスの質の向上に反映させている。	ホームは、市担当課主催の研修に参加したり、日ごろから連絡を取り合い、ホームの質の向上に努め、反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、職員に周知している。利用者の行動に制限はなく、玄関や勝手口、庭へ続く窓にも、日中は施錠はしていない。	ベッド上で起こり得る事態を過敏にとらえ、安易にベッド柵を増やす対応を考えがちであるが、常にケアの理念に立ち戻り、拘束をしないで済む工夫を、全員で検討しながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、復命にて職員全体に周知するほか、新聞やニュース等で高齢者虐待の情報があれば、ミーティング等ではなし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加し、制度について学んでいる。また、必要のある利用者の方には、後見制度を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更がある前に、ご家族には文書を発送するほか、来郷の際には、ご家族に直接説明し、同意書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族からの意見や要望を出しやすくなっている。家族会は、地域運営推進会にも参加し、意見を外部に出す機会を設けている。また、苦情相談窓口は、重要事項説明書やお便りに明記している。	家族も含め、全員で草取りを終えた後、懇談会も含め焼肉会を行ったり、敬老会と家族会を兼ねて合同で交流できるよう工夫し、意見や要望等が出しやすい取組に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや連絡ノートにより、職員の意見、提案の場を設けている。また、会議でも各々が発言できる機会をもっている。	管理者が、職員と日常的に現場で接しているため、職員の意見や提案は即座に検討され、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為に勤務時間を調整したり、資格取得後の登録料の一部支給や、資格に応じた手当の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を開き、研修を行っているほか、外部研修にも参加してもらっている。外部の研修に関しては、職員の経験年数やその能力に応じ参加してもらっている。参加した職員は、復命書を提出してもらい、それを回覧することで、他職員にも共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に参加し、他施設との情報交換等、交流を行っている。他にも地域包括支援センターと情報交換を行ったり、運営推進会議には、他のグループホームの職員も参加し、意見をもらい参考にしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や場合によっては、他施設からも情報 収取を行う。サービス導入前には、本人と直接 話ができる機会を作り、本人に寄り添って 話を聞く。しかし、入所希望の利用者本人が 県外に住んでいることで、事前面接ができな かったこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族と面会する時間を設け、意見や希望を 受ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの時に、本人の意見や要望、家 族の意向を伺う。その中で、必要とされる サービスを見極め、職員間で共通意識を持 ち、支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、一緒に洗濯物を干したり、も やしのひげ取りをしたりと、共同で生活をし ている。また、月に一度、模造紙に絵を描く ことがあり、それも塗り絵が得意な利用者 を中心として、完成させている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族、利用者と一緒に草取りをしたり、焼肉 会などの行事をするなど、利用者本人を家 族と一緒に支える関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時には、本人の住んでいた家や 昔住んでいた場所へ出かけたりしている。ま た、本人が仕事をしていた時代の知人や友 人も来て、面会をしている。	利用者がなじみの神社参拝に行ったり、畑で とった芋を焼き芋にしたり、ひな飾り、七夕、 七草がゆ、鏡開き等を行い、なじみの人やな じみの場を思い起こさせる取組も豊富であ る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	自室で終日過ごす方はおらず、常にホール に集まり、会話をしたり、一緒にテレビを見 たりして過ごされるのがよく見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、面会やお便りなどを通じ、関係を大切にしている。退去後の入居者本人の葬儀にも参加し、その時の家族の様子を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事やおやつは、利用者の好みのものを取り入れたり、ドライブや近隣のスーパーに買い物に出かけるなど、利用者本位に検討している。	ホームの理念である、「その人らしく暮らし続ける」ケアに向けて、職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、日々の行動や表情からくみ取り、把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や必要によっては、他施設にも情報提供を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック(血圧、体温測定)により、体調把握に努めている。利用者によっては、朝だけでなく、夜にも行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意向等を受け入れたケアになるように、職員全員で話し合い、プランを作成している。	計画作成担当者を中心に、日ごろからかわる職員や家族等と、気づきや希望、提案を出し合い、モニタリングやカンファレンスに反映させ、本人の暮らしの現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子は、ケース記録に記入している。また、ヒヤリハットキズキも作成しており、それに至らないことは、ケース記録に記入することにしている。内容によっては、ヒヤリハットを記入してもらい、さらには連絡帳に記入し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会話の中で、本人の意向を聞き、支援に努めている。『買い物に行きたい』という意見があれば、その日のうちに行けるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入して交流をはかり、支援体制をつくっている。今後はそれを強化していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当郷に提携医療機関はあるが、かかりつけ医師は、利用者それぞれ異なっている。施設入居前に、かかりつけになっている医療機関がそのまま継続している。職員は、必要な情報を提供し、適切な医療が円滑に受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には、家族同行の受診となっているが、健康状況を把握していることから、ホームの付き添いで受診することもあり、家族との連携は密にし、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週に1度、定期的な健診を受け、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、医療機関との情報交換を行い、また、家族からも1週間に1度は経過報告を受けようとしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ、ターミナルケア期を受け入れたことはないが、状態が重度化した場合やターミナルケアの在り方について、看護師やかかりつけ医と検討して、方針を整える予定である。	ターミナルケアについて、訪問看護の看護師が講師になって研修を行ったり、重度化や終末期に向けた指針が重要事項説明書に的確に示され、職員全員で共有できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に定期的に救急法の講習会へ参加してもらい、緊急時の対応ができるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施や地域消防団との連絡の構築を行っている。	地震防災訓練や津波時の避難場所等も確認できており、火災については定期的に地域を交えた防災訓練も実施され、夜間の職員による火元確認チェックも確実に実施されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する記録物は、事務所で保管している。プライバシーを損ねる対応はしないように留意して、支援している。	プライバシーを損なわないケアに取り組んでいるが、他の利用者が気づくケアや声のトーンが高かったりする場面も見受けられ、目立たず、さりげない言葉かけやケアが十分には実践されていない。	職員が、利用者に向けて発している言葉の語調が利用者の誇りとプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認に向けた取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	”開かれた質問”と”閉ざされた質問”など、会話によって質問を使い分けることやホワイトボードによる筆談など、本人が判断できる場面を作り、自己決定ができるよう、分かりやすく対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩(外部や庭)など、利用者の希望に沿い、『今を大切に』し、穏やかな生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容室に来てもらい、散髪ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできること(食器洗い、米とぎ、野菜の選別、食器類の片付け)は、職員と共にやっている。	ホームで料理した骨付きの魚が出され、利用者は骨と身を分けるのに手際が良く、おいしそうにきれいに食べていた。利用者にとって、なじみの食材、懐かしいものなども用意し、楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、確認票にて把握しており、食事が摂れていない時には、主治医と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でチェックし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	個別の排せつパターンをチェックし、日ごろから排せつのサインを見逃さないように努め、昼間は全員がトイレで排せつできるよう、支援の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便コントロールを行っている。また、毎日乳製品を飲用することや体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月、水、金)の定期入浴の他、本人の希望により、いつでも入浴ができるよう対応している。	現時点では、週3回、午後からの入浴となっているが、利用者の希望に沿った入浴の体制はできている。入浴拒否の利用者については、拒否原因を把握し、状況に応じた入浴支援となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操、散歩、ドライブ、買い物等を行い、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は必ず確認し、効能や副作用を確認している。変更時は、連絡ノートにて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個別に、本人のニーズを取り入れた計画を作成しており、それに基づいてケアを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーや神社は、散歩コースのひとつとして出かけている。他には地域の祭り、季節の花見など、利用者の希望に添った外出支援を行っている。	日常的な支援として、近くの芝生でのゴロ寝や近くのスーパーの特売にあわせ、並んでいただく役目も担ってもらっている。郊外では、梅まつり、コスモス、さくら見学を楽しんだりして、希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人でお金を持っている方もおり、買い物外出の際には、本人が支払をしている。支払の際には、一部支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、家族(近く、遠方の方も)へ電話をかけている。本人で、電話をかけることが難しい方は、職員が電話をかけ、相手と通じた状態で、本人と代わるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物があり、玄関からみえる景色は、近くは畑、遠くには山が見える。また、近くには高い建造物がないため、玄関の窓からは心地よい風が入ってくる。食堂を兼ねたホールにもその風は入ってきて、過ごしやすい空間となっている。明るさに関しても、刺激にならないような明るさのライトが設置されており、それが廊下、居室を照らしている。ホールには、テレビやソファが置かれ、ゆったりとくつろげる空間となっている。廊下、洗面所、浴室には手すりが設置され、安全性を確保する配慮がされている。	場所の表示が大きく「便所」などと書かれ、失認へのわかりやすい目印の工夫がある。談笑できるソファや見やすい高さにあるカレンダー、時計、また、異臭、よどみや気になる音も無く、利用者の状況に合わせた空間造りへの配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間(ホール)には、ソファが大人数で座れるものと、少人数で座れるもの。テーブルが2か所、やや離れた場所に設置しており、ひとりでテレビを見て過ごしたい時には、少人数で座れる席で過ごし、仲の良い利用者同士が談笑する時には、大人数で座れるテーブルを利用するなど、それぞれ共用空間で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真を持ってきて、心地よく過ごせる空間ができるようように工夫している。	使い慣れたモダンなテーブルやソファ、いす等が持ち込まれ、その人の個性に合った部屋造りとなるよう工夫している。部屋の壁には、お気に入りの写真が飾っており、安心でき、落ち着くつらえとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の表示、目印つけで、本人が分かるように工夫している。		